



シンポジウム開催報告

Symposium on the Japan Society for the Promotion of Science Japan -East Network of Exchange for Students and Youths Programme-

平成 22 年 7 月 28 日～30 日に千葉大学環境リモートセンシング研究センターにおいて、Symposium on The Japan Society for The Promotion of Science (JSPS) Japan - East Network of Exchange for Students and Youths (JENESYS) Programme が開催されました。

「21 世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS)」は、2007 年 1 月に開催された第 2 回東アジア首脳会議 (EAS) において、当時の総理大臣より表明された青少年交流事業で、大規模な青少年交流を通じてアジアの強固な連帯にしっかりとした土台を与えることを目的として、EAS 参加国 (ASEAN、中国、韓国、インド、豪州、ニュージーランド) を中心に、5 年間にわたり、毎年 6,000 人程度の青少年を日本に招くというプログラムです。このプログラムで来日した研究者らを中心に、シンポジウムテーマ "Development of Human Resource and System on Early Warning and Monitoring for Natural Disaster in South-East Asia" について、講習会や研究発表 (27 件の論文と 5 件のポスター発表) を行いました。

本シンポジウムでは、日本をはじめ、インドネシア、マレーシア、インドなどからの若手研究者が参加し、東南アジア地域における災害監視用の技術交流を行いました。また、最終日の 30 日には J.T.スリ スマンティヨ准教授が合成開口レーダ(SAR)画像信号処理の講習会を行いました。本講習会では、基礎的な SAR 画像信号処理から DInSAR と円偏波合成開口レーダ(CP-SAR)である新技術について、初心者にとっても理解しやすく解説されました。また、当センターの CP-SAR 搭載無人航空機と小型衛星についても紹介されました。

このプログラムを通して、現在実施中のマイクロ波や GPS を活用した東アジアと東南アジアに発生する災害 (特に大地震と土砂崩れ) の予測と観測、災害監視用の最先端円偏波合成開口レーダ搭載無人航空機と小型衛星の開発に携わっている若手研究者がアジアの強固な連携の土台として育つことが期待されます。なお、開発中の小型衛星は CP-SAR、GPS-SAR、小型光学センサなどのセンサを搭載して 2014 年度に打ち上げ予定です。

(J.T. Sri Sumantyo)





10th International Conference on Precision Agriculture 参加報告

7月18日～21日に、第10回国際精密農業会議がコロラド州デンバーにおいて開催されました。本会議は、コロラド州立大学の主催、International Plant Nutrition Institute および Foundation for Agronomic Research の共催で行われました。1992年にミネアポリスで第1回目の会議を開催して以来、2年に1度行ってきた本会議は今回で10回目を迎え、20周年という記念すべき会議となりました。

初日のレセプションパーティーでは、ホスト役のコロラド州立大学 Dr. Raj Khosla 氏が挨拶に立ち、世界各国から400名を超える登録があったこと、今回の会議では食糧安全保障が大きなテーマであることを述べました。そして、2日目のオープニングセッションでは、世界人口が増加し続けていることを考えると、精密農業は食糧安全保障に対するひとつの対応策であると言及し、“When your tummy is hungry is hard to listen to anything else other than feeding itself.”と述べました。さらに、人々の食習慣が変化していることを挙げ、多様化する様々な要求に対して、現在アメリカで利活用している精密農業の技術をどのように翻訳するか、そしてその技術を経営規模の小さい先進諸国や発展途上国の農業経営にどのように適用するかを示していく重要性について語りました。

これを受けて、ネブラスカ大学 Dr. Ken Cassman 氏が Global Food Security, Yield Limits, Precision Agriculture, Conservation of Natural Resources and Environmental Quality というテーマで食糧安全保障に関する基調講演を行った後、5の会場に分かれて15のセッションが開催されました。また、昼食会では今年から発足する International Society of Precision Agriculture の役員選出選挙が行われ、初代会長には今回のホストである Dr. Raj Khosla 氏が就任しました。5時から始まったポスターセッションにはキャッシュバーが併設され、ビール片手に和やかな雰囲気の中で研究に関する情報交換が行われていました。筆者は、Estimation of sugar beet yield before harvesting using meteorological data and SPOT satellite data について発表しました。てん菜は北海道だけで栽培されている作物という理由からか国内の研究者は限られているのですが、アメリカでは五大湖地帯、北中西部地帯、大平原地帯、極西部地帯にてん菜の生産地帯があり、大学、研究機関、企業などで数多くの研究が行われています。本会議では、リモートセンシング、精密農業、気象データ、てん菜というキーワードに関して各国の研究者と情報交換ができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今回40カ国以上の国々から、41のセッションにおいて約260名が発表し、約450名の参加者が熱心に論議を交わしました。研究者、生産者、IT、機材メーカー、販売業者、コンサルタント、ソフトウェア開発業者、教育者、政府関係者と多岐に渡る参加者らは、過去の20年間を振り返りながら、将来の精密農業革新、世界の農地のポテンシャルを最大限にするために、一体となって取り組むことの必要性を再確認してデンバーTech Centerを後にしました。

(本郷千春)



主催のコロラド州立大学 Dr. Raj Khosla 氏



オープニングセッションの様子



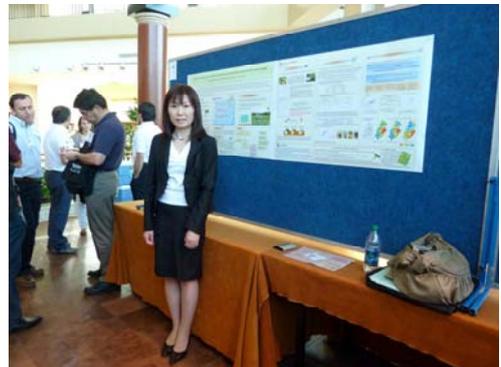
ISPA 初代役員の選挙
投票後 1 分程度で結果が集計される



左から、ISPA President: Dr. Raj Khosla、
President-elect: Dr. John Stafford、Treasurer: Dr.
Angela Guidry、Secretary: Dr. Nicolas Tremblay



ポスターセッションの様子



筆者



日本からは農工大の澁澤先生も参加しました



企業展示